



イブニング
セミナー
3

国立がん研究センターにおける 皮膚悪性腫瘍に対するBNCT

国立がん研究センター 中央病院
放射線治療科長

井垣 浩 先生



座長

国立がん研究センター 中央病院
皮膚腫瘍科長

山崎 直也 先生

日時

6月10日(木) 16:45~17:45

場所

パシフィコ横浜 会議センター
第5会場 3F 301

皮膚悪性腫瘍に対するホウ素中性子捕捉療法 (BNCT)

ランチョン
セミナー
16

原子炉中性子源を用いた BNCTの臨床研究: 皮膚悪性黒色腫

川崎医療福祉大学 医療技術学部 診療放射線技術学科
学科長 / 特任教授

平塚 純一 先生



加速器BNCTの現状と今後の展望

国立がん研究センター 中央病院
前放射線治療科長

伊丹 純 先生



座長

国立がん研究センター 中央病院
皮膚腫瘍科 医長

高橋 聡 先生

日時

6月11日(金) 11:20~12:20

場所

パシフィコ横浜 会議センター
第13会場 5F 511・512

イブニングセミナー3

国立がん研究センターにおける 皮膚悪性腫瘍に対するBNCT

国立がん研究センター 中央病院
放射線治療科長
井垣 浩 先生

国立がん研究センターでは株式会社CICSとの共同研究のもと、2014年の中央病院診療棟完成とともにBNCT用中性子照射装置を導入し、皮膚悪性黒色腫および血管肉腫を対象としたBNCTの治験を2019年11月に開始した。
本セミナーでは、BNCTの理論的背景を含め、国立がん研究センターに導入した中性子照射装置および公開可能な範囲でその臨床効果について供覧する。

ランチョンセミナー16

原子炉中性子源を用いたBNCTの 臨床研究：皮膚悪性黒色腫

川崎医療福祉大学 医療技術学部 診療放射線技術学科
学科長 / 特任教授
平塚 純一 先生

黒色腫BNCTは、1987年神戸大学の三嶋豊らのグループによりその臨床研究が始まり、22症例の治療実績が報告されている。我々も2003年から倫理審査会承認のもと皮膚悪性黒色腫BNCTを行ってきたのでその臨床成績につき報告する。

加速器BNCTの現状と今後の展望

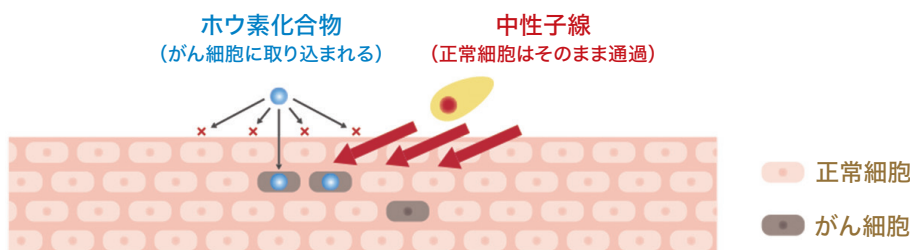
国立がん研究センター 中央病院
前放射線治療科長
伊丹 純 先生

従来は十分量の熱中性子を得るためには原子炉を利用する必要があったが、わが国でBNCT用の加速器が開発され臨床応用が進みつつある。BNCTでは正常組織の障害が少なく放射線治療後の再発などにも適応となるといわれており、今後大きく発展する治療法である。

※演者のコメントは、抄録より抜粋

BNCT（ホウ素中性子捕捉療法）とは

BNCTは放射線治療の一つで、患者様の体にはがん細胞に特異的に取り込まれるホウ素(^{10}B)化合物を投与し、体外から中性子を照射することで、ホウ素と中性子が反応して生じる α 線とLi原子核によってがん細胞を選択的に死滅させる治療法です。原則1回の中性子照射で治療が完了し、がん細胞をピンポイントで破壊するため、身体への負担の少ない治療法として期待されています。



BNCTの特徴

副作用が少ない

放射線治療後の再発がんも対象

1度の照射で治療が完了

浸潤性のがんや多発がんにも効果が期待

共催

第120回日本皮膚科学会総会／株式会社ハイメディック

HIMEDIC